

# ReAMoプロジェクト全体概要

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)

航空・宇宙部 次世代空モビリティ・ユニット ReAMoプロジェクト プロジェクトマネージャー

平山 紀之

2026年5月13日



ReAMoプロジェクトホームページ  
URL <https://reamo.nedo.go.jp/>

# 目次

1. NEDO概要
2. 次世代空モビリティに関する国内外動向
3. ReAMoプロジェクト概要

1. NEDO概要
2. 次世代空モビリティに関する国内外動向
3. ReAMoプロジェクト概要

# NEDOの概要



次世代空モビリティの社会実装に向けた実現プロジェクト

- 「エネルギー・地球環境問題の解決」や「産業技術力の強化」実現に向けた技術開発を推進  
経済産業行政の一翼を担う、国立研究開発法人。2003年設立。
- 産学官が有する技術力、研究力を最適に組み合わせ、「リスクが高い革新的な技術開発と実証」を推進し、  
成果の社会実装を促進する「イノベーション・アクセラレーター」として、社会課題の解決や市場の創出を目指す。

執行額



1兆4,631億円

(2024年度実績)

予算



5,052億円

(2026年度当初予算※基金を除く)

事業数



74事業

(2026年4月時点)

海外での展開国数



15カ国

(2026年4月時点)

## イノベーション・アクセラレーターとしてのNEDOの役割

技術戦略の策定、プロジェクトの企画・立案を行い、プロジェクトマネジメントとして、産学官の強みを結集した体制構築や運営、評価、資金配分等を通じて技術開発を推進し、成果の社会実装を促進することで、社会課題の解決を目指します。



# 航空・宇宙部の所管分野



次世代空モビリティの社会実装に向けた実現プロジェクト

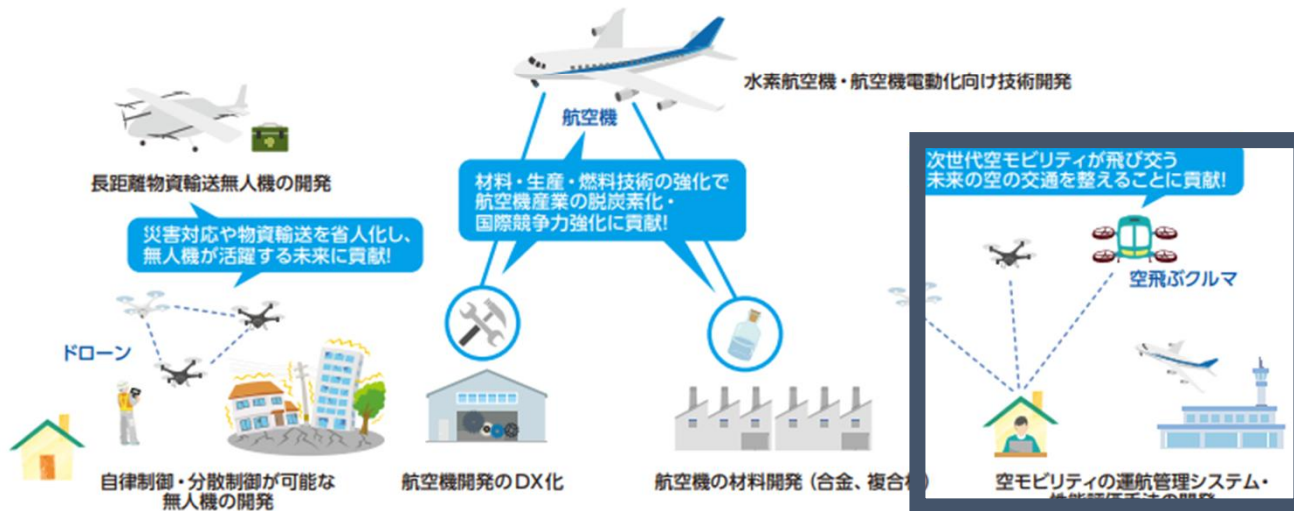


衛星

航空機

ReAMoプロジェクト

次世代  
空モビリティ



# 目次

1. NEDO概要
2. 次世代空モビリティに関する国内外動向
3. ReAMoプロジェクト概要

# 「次世代空モビリティ」の活用イメージ

## 物流での活用

モノの移動がよりスマートに  
運転手不足の物流網の課題や  
新たな空域の利用により渋滞等を解決



## 災害時の活用

インフラの復旧等を待たずに  
人命救助、物資支援が可能に



## 都市内での活用

迅速かつ快適な移動が可能に  
莫大なインフラ投資をせずに渋滞等を解決



## 離島や中山間地域での活用

移動が不便な地域での  
効率的な移動を可能に  
過疎地での活用、観光需要の創出も



# 日本成長戦略における次世代空モビリティの位置づけ

- 戦略17分野のうち、航空・宇宙分野の中で主要な製品・技術等に位置づけ
- 第3回日本成長戦略会議（2026年3月）にて、官民投資ロードマップ素案公表

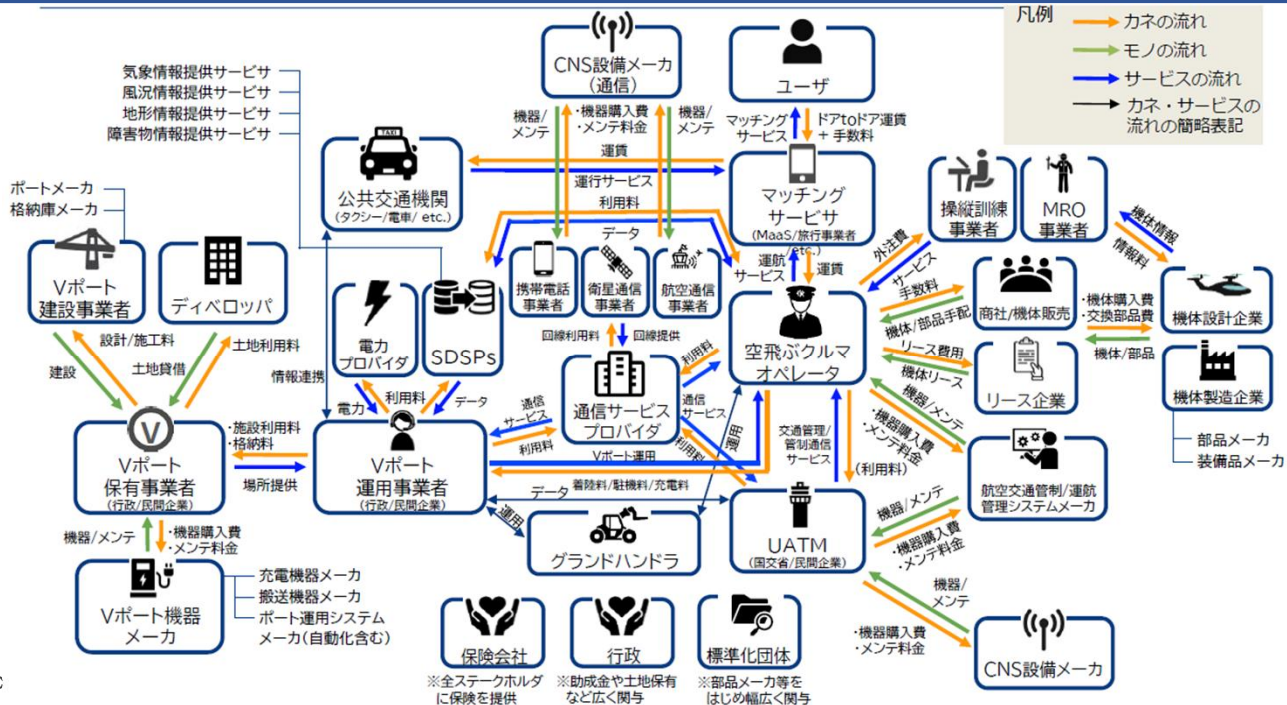
<b>航空・宇宙</b>  内閣府 (経済安保)	①民間航空機 (次期単通路機・次世代航空機)	航空旅客需要は今後20年間で約2倍の成長が見込まれ、民間航空機市場は拡大(航空機の高頻度運航により、単通路機の需要は大きく拡大。環境新技術(水素、電動化、軽量化等)を搭載した次世代航空機の需要も拡大見込み)。民間航空機開発のサプライチェーンや人材等は防衛産業とのシナジー効果も高く、安全保障上も重要であり、生産・技術基盤の自律性確保が急務。	双通路機の実績や製造技術、品質保証等の強みを活かし、インテグレーション能力を獲得すべく、次期単通路機では仕様設計・認証等への参画に向けた技術実証や開発・量産体制構築を行うとともに、次世代航空機では開発・国際標準化を主導する。こうした海外OEMとの国際共同開発のための投資や認証取得能力の向上等により、サプライチェーンの強靱化や人材の育成と併せて、自律的に発展可能な国内技術基盤を確立する。	
	①民間航空機 (次期単通路機・次世代航空機) ②無人航空機 ③空飛ぶクルマ ④ロケット・射場 ⑤人工衛星・サービス ⑥月面探査・低軌道技術	②無人航空機	インフラ点検や物流等の民生の効率化・無人化需要に加え、防衛需要も拡大(デュアルユース)。2030年には世界の機体市場は1.5兆円に。海外製に大きく依存しており、自律性確保が急務。	民防の需要に向けた国内量産体制の構築や、認証取得能力の向上、AIなどソフトウェアの開発を進め、国内のサイバーセキュリティが重視される分野や、単独国への集中的な依存の低減を図る同盟国・同志国の市場獲得を目指す。また、目視外飛行での新たなビジネスモデルによる事業化を図る。
		③空飛ぶクルマ	未だ技術開発段階だが、2040年には世界の市場(機体・サービス等含む)は約200兆円に。要素技術開発やサプライヤー育成は、安全保障上も重要な航空機産業の発展にも貢献するなど、生産・技術基盤の自律性確保が重要。	国内機体の小型・軽量等の強みを活かしたビジネスモデルを構築し、産業基盤構築に向けた投資、認証取得能力の向上等により、国内外において短距離路線へのニーズが高い市場の獲得を目指す。
		④ロケット・射場	通信・観測・測位・安全保障等で宇宙利用が進み、2030年代には約150兆円の市場が見込まれるが、宇宙利用のためにはロケット打上げ能力が不可欠。国内衛星の多くは海外から打ち上げられており、米・中・欧・印が打上げ能力を強化する中、我が国も自律的な宇宙空間へのアクセス確保・拡大が急務。	基幹ロケット等の信頼性を向上させながら、打上げ実績を早期に蓄積し、高頻度打上げに対応できるロケットの国内製造能力と射場整備につなげ、輸送コストや即応性等の強みを活かして、国内やアジア等の衛星の打上げ需要を獲得する。

出所：日本成長戦略会議(第3回)

<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/nipponseichosenryaku/kaigi/dai3/gijishidai.html>

# 空飛ぶクルマにより新たに生まれるビジネス

空飛ぶクルマの社会実装により、機体・部品の開発・製造（モノづくり）が進むだけではなく、**離発着設備の建設・運営（街づくり）**や**ヒト・モノの輸送サービス**、更には保険など、空飛ぶクルマを中心とした幅広いビジネスが広がることが期待される。



# 大阪・関西万博における空飛ぶクルマデモフライト



次世代空モビリティの社会実装に向けた実現プロジェクト

- 6か月間で3機体 計81フライト実施。長期間にわたる複数機体による一般公開は世界初。

## 運航者/機体概要

### 丸紅



©LIFT Aircraft Inc.

LIFT Aircraft  
HEXA  
航続25km / 定員1名

### SkyDrive



©SkyDrive

SkyDrive  
SD-05  
航続15km / 定員3名

### ANAHD/Joby Aviation



©ANAHD/Joby Aviation

Joby Aviation  
Joby S4  
航続160km / 定員5名

### Soracle



©Soracle Corporation

Archer Aviation  
Midnight  
航続160km / 定員5名

## 飛行概要

※フライト回数には慣熟飛行等も含む

4月、7月  
(合計29フライト)  
EXPO Vertiport内を飛行

7月～8月  
(合計17フライト)  
EXPO Vertiportの  
周辺を飛行

9月～10月  
(合計35フライト)  
EXPO Vertiportから  
会場西側海上を飛行

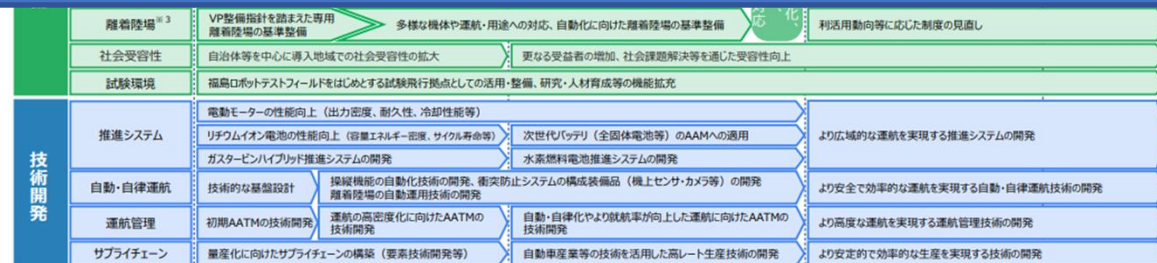
7月  
(展示のみ)  
EXPO Vertiport  
格納庫内で展示

# 空の移動革命に向けたロードマップの改訂



## 2026年3月27日改訂

- 2020年代後半：国内での商用運航開始時期の明確化
- 2030年代前半：新たな交通管理・遠隔操縦による旅客輸送の導入
- 2030年代後半：自動・自律運航の一部実現



※1 自家用運航については、商用運航に合わせて普及することが見込まれる

※3 離着陸場には、規模や役割等に応じて充電施設や格納庫等が併設される

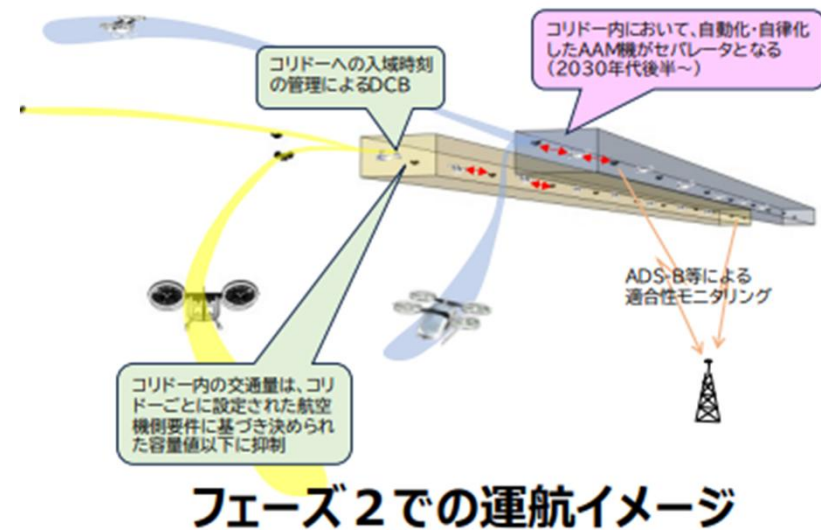
※2 運用概念：空飛ぶクルマ（AAM）の主要な構成要素や段階的な導入のフェーズ

※4 自動化・自律化レベルに関係なく、操縦者が搭乗していないこと

# 空飛ぶクルマの運用概念の改訂

- 空飛ぶクルマへの参入を検討する業界関係者に必要な情報を共有し、認識の共有を図る
- 機体・地上インフラ・交通管理・主要な課題に関する概要、段階的な導入フェーズ
- 2023年3月第1版、2024年4月 第1版改訂A、2026年3月 第2版

時期	フェーズ	概要
2020年代中期	フェーズ 0	商用運航に先立つ試験飛行・実証飛行
2020年代後半	フェーズ 1	商用運航の開始。低密度での運航
2030年代前半	フェーズ 2 前期	運航規模の拡大。中～高密度での運航 一部自動・自律運航の実施（後期）
2030年代後半	フェーズ 2 後期	
2040年代以降	フェーズ 3	自動・自律制御を含む AAM運航の確立 高密度での運航



# 空飛ぶクルマの社会実装に係る海外動向

- 米国では、「電動離発着機統合実証プログラム（eIPP）」全米26州・8件の実証を選定  
2026年夏にも運航開始へ
- 中東では、ドバイ国際空港にエアタクシーVertiport完成、2026年末にも商用運航開始へ

## In March 2026, the FAA selected eIPP partners:

Florida Department of Transportation

City of Albuquerque

Utah Department of Transportation

Pennsylvania Department of Transportation

Texas Department of Transportation

North Carolina Department of Transportation

Port Authority of New York and New Jersey

Louisiana Department of Transportation  
and Development

出所: FAA Newsroom

<https://www.faa.gov/newsroom/eIPP-Announcement-Fact-Sheet.pdf>

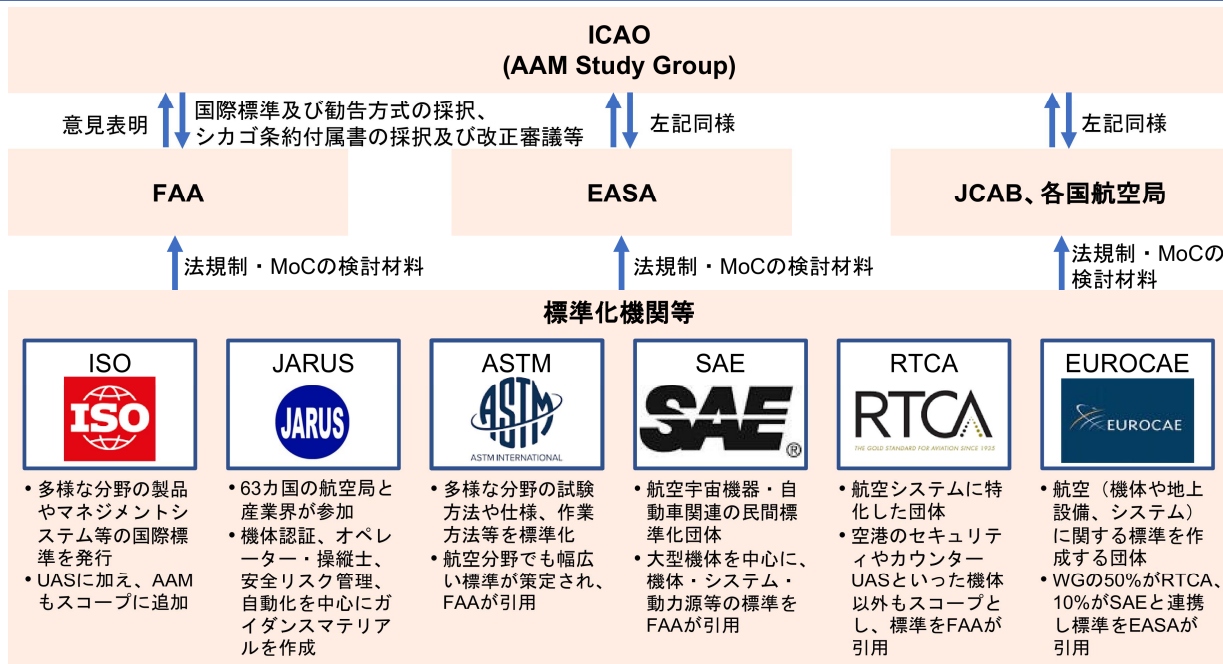


出所: Skyports社 Newsroom

<https://skyports.net/worlds-first-commercial-vertiport-technical-completion/>

# 標準化機関の関係

- ICAO Advanced Air Mobility Study Groupで将来像を議論する一方、FAAやEASAが標準化機関の規格を引用しながら法規制・MoCの策定を先行している。
- 標準化はASTMやEUROCAEといった欧米の標準化機関が中心となって推進。



# ICAO AAM Symposium 2026



- 2026年12月1日～3日 タイ・バンコクにて第2回開催予定。
- 前回は、AAM(空飛ぶクルマ・ドローン)分野の産業界、学界、政府、国際機関の主要な関係者約1500名が集まり、多彩なテーマについて討議。(本シンポジウムを通じて、Call for Action が公表。)  
NEDOも国交省、経産省と連名でJapanブースを設置。日本の制度整備状況、ReAMo情報を発信。



# 目次

1. NEDO概要
2. 次世代空モビリティに関する国内外動向
3. ReAMoプロジェクト概要



# Figures of Realization of Advanced Air Mobility Project



Duration

**5 Years**

FY2022 to FY2026



Total Budget

**¥15B**



Partners

**42**

Industries, Universities,  
and Institutes



R&D Items

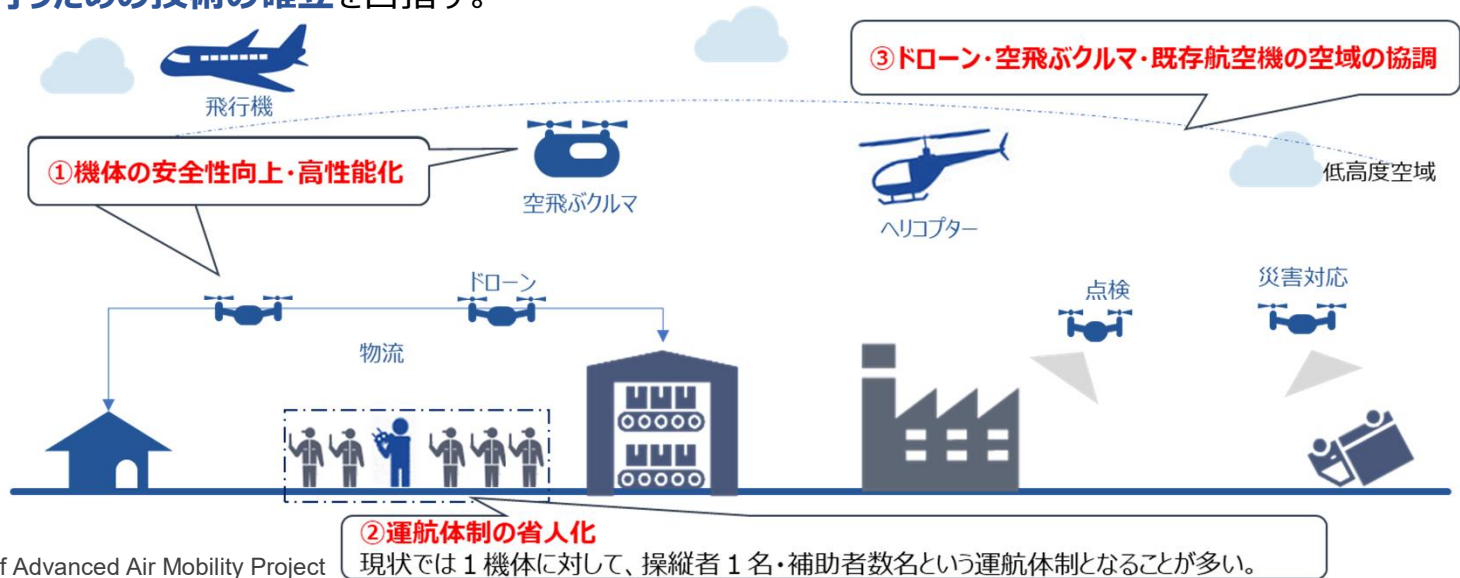
**9**

+2 research items

# ReAMo プロジェクト 概要

今後の産業拡大を見据え、

- (1) 試験方法の標準化や産業規格化により、「機体の安全性向上・高性能化」を進め、ドローンの活用の幅を拡大し、空飛ぶクルマの市場を創造する。
- (2) 「運航体制の省人化」によって1人の操縦者が複数の機体を操縦できるようにし、ドローン利活用のポテンシャルをさらに引き出す。
- (3) また、空飛ぶクルマが登場することも見据え、ドローンと空飛ぶクルマ、既存航空機が空域を協調し、より安全で効率的な航行を行うための技術の確立を目指す。



# ReAMo プロジェクト 各項目の関係性

## 研究開発項目①「性能評価手法の開発」

- (1) ドローンの性能評価手法の開発
- (2) 空飛ぶクルマの性能評価手法の開発
- (3) ドローンの1対多運航を実現する適合性証明手法の開発
- (4) ドローンの1対多運航を実現する機体・システムの要素技術開発

## 研究開発項目②「運航管理技術の開発」

ドローン・空飛ぶクルマ・既存航空機がより安全で効率的な飛行を実現できる研究開発

### 【研究開発要素】

- (A) 運航管理システム・衝突回避技術の開発
- (B) エコシステム構築に向けたオペレーション検証
- (C) 自動・自律飛行、高密度化に向けた技術開発

### 調査項目①

「海外制度・国際標準化  
動向調査」

### 調査項目②

「全体アーキテクチャ・  
要素技術調査」

### 調査項目③

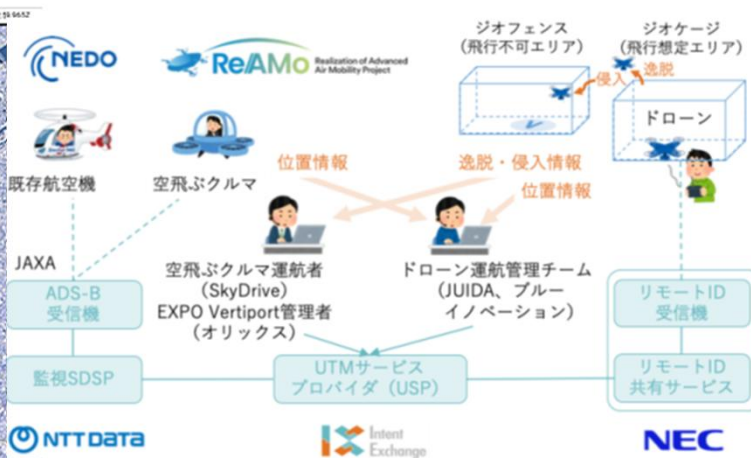
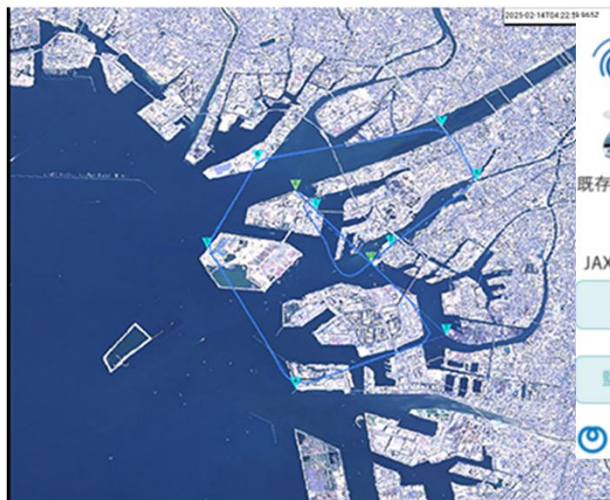
「国内外への成果発信」

- : 委託事業
- : 調査委託事業
- : 補助事業

# (主要成果)大阪・関西万博での実証

## 大阪・関西万博において空飛ぶクルマ運航管理(AATM)、ドローン運航管理(UTM)の技術実証を実施

- AATM：空飛ぶクルマ機体の動態モニタリング、飛行計画の登録、離着陸場の管理
- UTM：ジオフェンス(飛行不可空間)・ジオケージ(飛行計画された空間)の設定、ドローン・有人機の動態モニタリング



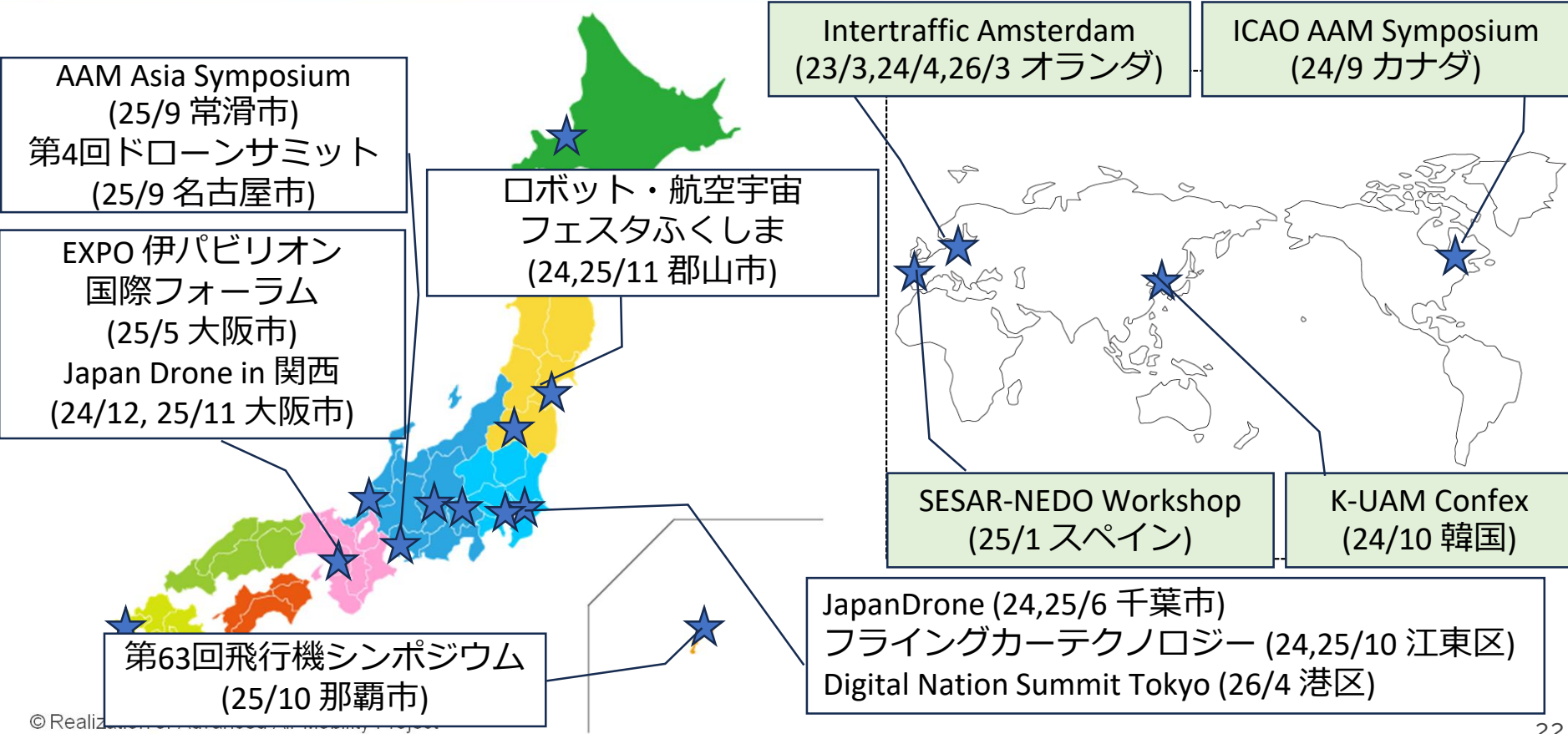
# ReAMo プロジェクト ホームページ



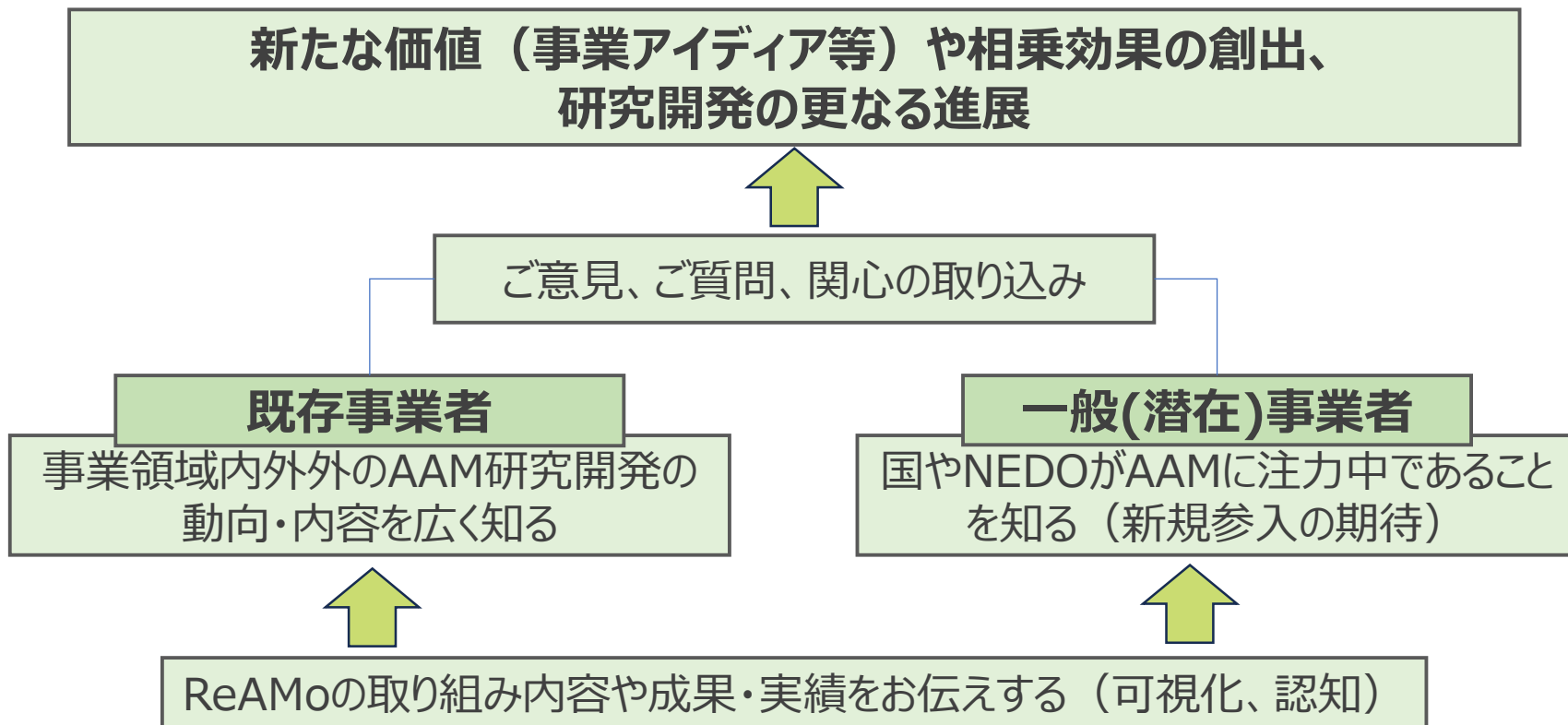
- ReAMoプロジェクトにおける各事業の概要、成果を広く一般に知っていただくことを目的に公開
- 事業を進めていく中で、一般公開できる情報を、積極的に掲載
- 想定するHPの訪問者
  - ReAMo関係者
  - 空モビリティ事業関係者
  - 空モビリティに興味のある一般の方
- 予定している公開情報
  - シンポジウムの開催案内、資料、動画
  - 欧米等の規制・標準化の動向
  - 研究成果等の論文や新聞等への記事掲載状況
  - 意見交換会等、各種PJ内活動の開催案内
  - 動画等のコンテンツ公開
  - 実証実験の実施状況 など



# 国内外への情報発信 (講演依頼お待ちしております！)



# (さいごに) 本シンポジウムを通じて





なにか不明点ありましたら、遠慮無くお問合せください。  
ReAMoチーム < [nedo\\_aam@ml.nedo.go.jp](mailto:nedo_aam@ml.nedo.go.jp) >



URL <https://reamo.nedo.go.jp/>